

## 2010年 第2回 「現代経営研究会」

講師：木村 俊昭 氏 農林水産省大臣官房政策課 企画官

演題：地域活性化の動向 -地域活性化とは何か？-

講演会出席者：54名

内訳：教職員15名、学生・院生2名、法人年間会員12社14名、一般23名

### 報告要旨

#### 1. 豊富な事例をご紹介

講演の冒頭から、木村講師は現在関与されておいでの新潟市、大津市、帯広市等の地域活性化の事例に触れられ、その後はこれまでに携われてこられた豊富な事例を次々にご紹介された。小山市（栃木県）は百貨店から職員が派遣されて「道の駅」による地域活性化を成功させており、遠軽（北海道）は農業や木工業をプラス思考で行うようになった例として紹介された。また、鹿屋市（鹿児島県）の「やねだん」町内会はさつまいもやみそ、焼酎生産を順調に発展させて今では貿易まで行っており、正直村（青森県）は農産物加工业で地域活性化を推進しているとして、それぞれ興味深いお話を紹介された。

#### 2. 地域活性化にとって大切なこと

このような豊富な事例を通じて、木村講師は地域活性化を行う上で重要なポイントを講演の随所で明示してくださった。『築城せよ！』という映画の段ボールで城を築いていく3人に町民たちが徐々に参画していく様子を引用して、わが町の活性化のためには誰かが工場を誘致して雇用を創出してくれるのを期待するという客体的な姿勢ではだめで、自らが参加しなければならないということに気づき、主体的に取り組み、そして地域の人々全体で一体感を共有することが重要であるということ 강조했다。さらに、何事もわかりやすいことが肝要で、一言でいうとどういうことかと、常に考える習慣が重要であり、そのためにはディスカッション・パートナーの存在も大事であることを、利尻昆布販売の社長さんがキャッチフレーズにこだわって成功した例を紹介して説明してくださった。

木村講師は人財（木村講師は「人材」を「人財」としている）を大変重要視されていて、小山市の事例では仕事上の専門家の重要性を、また正直村の事例では地域の中で誰がどのような技術を持ち、どこにどのような機械があるのかを把握することで地域内における人財や職人等の資源を確保する仕組みを作ることが重要で、そのためには常勤の人たちの役割が大切になってくることを強調された。地域活性化は産業文化を地域から世界に向けて発信することであり、地域で地域を知ることがなくてはならない。鹿屋市の「やねだん」は、行政に頼ることなく町内会で子供の教育と文化の振興を行うことを村づくりの基本としていることをお話しくくださった。「やねだん」には人が移り住んできており、木村講師が地域というのは動きがあると人が戻ってくると指摘されたことは大変印象深い。

#### 3. 地域活性化とは？

講演の最後では、地域活性化とは何かという問いに対して、木村講師は町全体の最適化を達成することであると説明された。すなわち、地域活性化によって、まずは地域の人々

の所得が確保され、増加されなくてはならない。また、活性化に貢献した人が評価されて、地域の歴史に名を残すようなこともなくてはならない。地域における人財の育成と育成システムの確立がなければ長期的に持続しない。女性の活躍の場がなくてはならない。地場産業の振興とともに新しい産業の創出がなくてはならない、などの内容が伴う必要のあることを強調された。そのためには事業構想力をつけることから始まり、農商工の連携が大事であり、そして実践の方法として「エコノミック・ガーデニング方式」を紹介された。

質疑応答：この講演会の中に質疑応答の時間はとれなかったが、懇親会において、木村講師はご熱心に質問に応じてくださった。